

加工食品（内食）の需要が増加する一方、中食や外食産業が低迷 主食・惣菜用途の加工食品、中食・外食の市場を調査

—2020年国内市場見込（前年比）—

・主食用途の加工食品 3兆18億円（4.5%増）

～簡便性の高い米飯類やめん類の需要が増加～

・惣菜用途の加工食品 6,003億円（3.1%増）

～保存性に優れる冷凍調理済食品や売りが活性化しているチルド調理済食品が好調～

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景とした消費行動の変化により、従来とは異なる動きがみられる主食や惣菜用途など加工食品、中食・外食の市場を調査・分析した。その結果を「[新型コロナウイルスによる食品市場及び喫食シーン変化比較分析レポート](#)」にまとめた。

※市場は小売ベース

※中食には外食のデリバリー／テイクアウトを含む

<調査結果の概要>

在宅時間の増加やリモートワークなど、新たなライフスタイルの定着に伴い消費行動も変化している。感染リスクを減らすため外食機会は激減し、家庭内で調理する内食化が進んでいる。また、外出頻度が減少していることからまとめ買いも増えており、保存性に優れる商品が伸びている。外食産業では、テイクアウト／デリバリー対応することで家庭内への進出を図っている。

■主食市場

米飯類やめん類、パンなどを中心とする主食市場は、2020年に新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛、内食化を背景に加工食品の需要が増加するものの、中食は弁当類やサンドイッチ、外食はランチ需要の減少からラーメンやセルフ式そば・うどんなどの低迷により減少するとみられる。

	2020年見込	前年比	2026年予測	2019年比
加工食品（内食）	3兆 18億円	104.5%	2兆9,328億円	102.1%
米飯類	3,780億円	107.2%	3,601億円	102.1%

※米飯類は加工食品（内食）の内数

米飯類、めん類など主食用途の加工食品を対象とする。

冷凍米飯や無菌包装米飯などの米飯類は、簡便性が支持され好調であり、めん類はチルドで3食入りなどの需要が増加しているほか、冷凍具付きめんなど本格志向であり満足度の高い商品は、量販店だけでなくCVSでも売れ行きが好調である。2020年の市場は前年比4.5%増が見込まれる。2021年以降、市場は緩やかに縮小するものの、需要は底堅く、高い水準を維持するとみられる。

	2020年見込	前年比	2026年予測	2019年比
中食	4兆5,218億円	96.2%	4兆6,034億円	97.9%

中食の米飯類、めん類、パンおよび外食テイクアウト／デリバリーを対象とする。

中食は即食性の高さが最大の優位点であるが、保存性を求める需要が高まっており、伸びているカテゴリーは限定的である。宅配ピザは好調であるものの、オフィスワーカーの朝食、ランチ需要減によりCVSを中心に弁当類やサンドイッチ・調理パンが落ち込み、2020年の市場は前年比3.8%減が見込まれる。2021年以降緩や

かに回復するとみられる。

	2020年見込	前年比	2026年予測	2019年比
外食	2兆2,548億円	94.0%	2兆3,124億円	96.4%
ハンバーガー	5,655億円	103.2%	5,709億円	104.2%

※ハンバーガーは外食の内数

回転ずし、ラーメン、ハンバーガーなどの外食を対象とする。

外食では、デリバリーやドライブスルーといった感染リスク低減対策と親和性の高い業態であるハンバーガーが好調で、今後も成長が期待される。一方、ラーメンやセルフ式そば・うどんは都心における需要減やオフィスワーカーのランチ需要減などにより大幅に落ち込んでいることから、2020年は前年比6.0%減が見込まれる。2021年以降緩やかに回復するとみられる。

■惣菜市場

2020年、加工食品（内食）は伸びるものの、中食のホットデリカやコールドデリカ、外食業態で料飲店が大幅に落ち込み、縮小するとみられる。

	2020年見込	前年比	2026年予測	2019年比
加工食品（内食）	6,003億円	103.1%	5,971億円	102.6%
冷凍調理済食品	3,703億円	102.9%	3,687億円	102.5%

※冷凍調理済食品は内食の内数

冷凍調理済食品、チルド調理済食品を対象とする。

内食では、保存性に優れ、手軽に本格志向が味わえる冷凍調理済食品が好調で、定番であるギョーザやシューマイ、唐揚げが伸びている。チルド調理済食品は日配売り場自体が活性化しており、他の日配品と同時に購入されるケースが増加しているほか、内食が増加したことで2020年の市場は前年比3.1%増が見込まれる。冷凍調理済食品とチルド調理済食品は獲得した需要を今後も維持し、市場は横ばいで推移するとみられる。

	2020年見込	前年比	2026年予測	2019年比
中食	1兆7,467億円	98.3%	1兆7,856億円	100.5%

ホットデリカ、コールドデリカ、外食テイクアウト／デリバリーを対象とする。

中食では、家庭メニューながら、専門店としての認知も上昇していることから唐揚げ専門店のテイクアウトが好調である。一方、オフィスワーカー需要が減少していることや、感染リスク低減のためバラ売りからパック売りへの切り替えが進んでいることで、容量を求めない消費者から敬遠されるなどコールドデリカやホットデリカが落ち込んでいるから、2020年は前年比1.7%減が見込まれる。2021年以降テイクアウト／デリバリーの定着が進み、市場は緩やかに回復するとみられる。

	2020年見込	前年比	2026年予測	2019年比
外食	1兆644億円	71.0%	1兆1,593億円	77.3%

唐揚げ、餃子専門店、料飲店など外食業態を対象とする。

料飲店の苦戦が続いており大幅に縮小することから、2020年の市場は前年比29.0%減が見込まれる。2021年以降緩やかに回復に向かうとみられる。

<調査対象>

軽食・間食		
内食		
・菓子	・チルドデザート	・シリアルフーズ
・スナック菓子	・アイスクリーム	・栄養バランス食
・スープ類	・ドライデザート	・その他

中食	・スープ・汁もの・鍋 ・チルド洋菓子・和菓子	・ドライ洋菓子・和菓子 ・CVSスナック類	・外食テイクアウト／デリバリー
外食	・スープカフェ ・クレープ ・コーヒーショップ	・喫茶店・コーヒー専門店 ・アイスクリーム	・チキン ・たこ焼き・お好み焼き類
主食			
内食	・米飯類	・めん類	・パン
中食	・米飯類 ・弁当類 ・宅配ずし	・宅配釜めし ・めん類 ・パン	・サンドイッチ・調理パン ・宅配ピザ ・外食テイクアウト／デリバリー
外食	・回転ずし ・牛丼 ・天丼・天ぷら ・海鮮丼	・スタミナ丼 ・とんかつ・かつ丼 ・定食チェーン ・ラーメン	・セルフ式そば・うどん ・ハンバーガー ・ドーナツ ・サンドイッチ
惣菜			
内食	・冷凍調理済食品	・チルド調理済食品	
中食	・ホットデリカ	・コールドデリカ	・外食テイクアウト／デリバリー
外食	・ステーキ ・唐揚げ	・ステーキハンバーグFR ・ステーキハンバーグレストラン	・餃子専門店 ・料飲店
嗜好飲料			
内食	・RTD	・嗜好品	
中食	・CVSカウンターコーヒー		
外食	・FF ・FR	・コーヒーショップ ・喫茶店・コーヒー専門店	

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>

2020年11月～12月

以上

資料タイトル	： 「新型コロナウイルスによる食品市場及び喫食シーン変化比較分析レポート」		
体裁	： A4判 69頁		
価格	： PDF版 300,000円+税 ネットワークパッケージ版 450,000円+税		
発行所	： 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通 TEL：03-3664-5811（代） FAX：03-3661-0165 URL： https://www.fuji-keizai.co.jp/ e-mail：info@fuji-keizai.co.jp		
調査・編集	： フードビジネスソリューション事業部		

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL：<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/>